2025年3月

発行者：GEを大切に思う人たち
発行元：愛知県新城市黄柳野字池田663-1

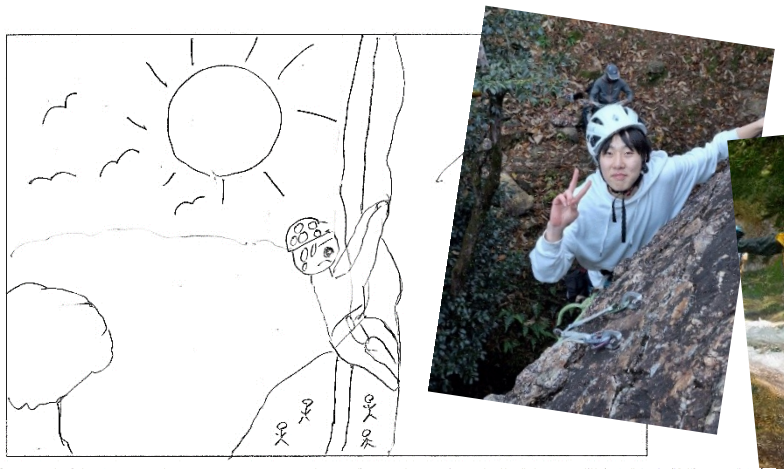
グレートアース新聞

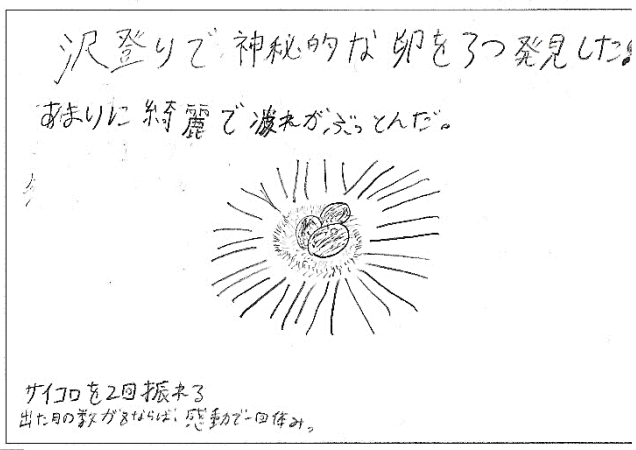
第22号

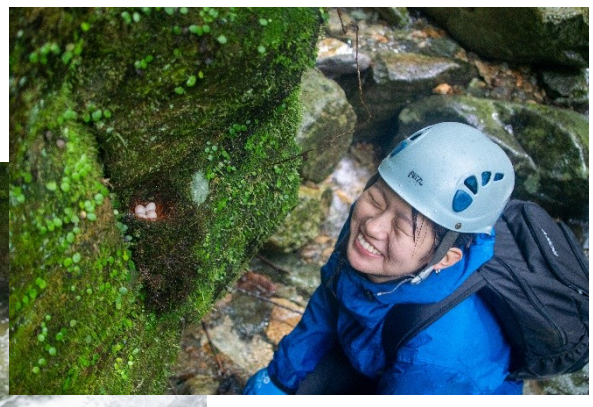
2024年度、終わり！

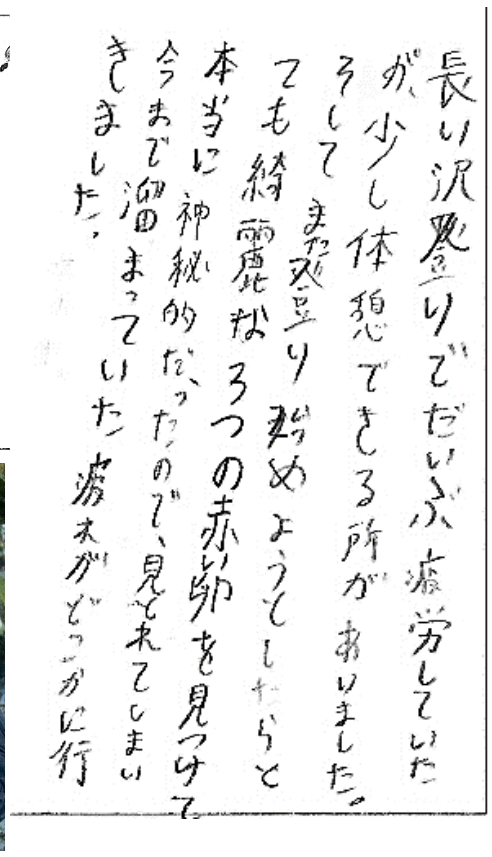
～遊び、感じ、命と出会い・・・生きる～

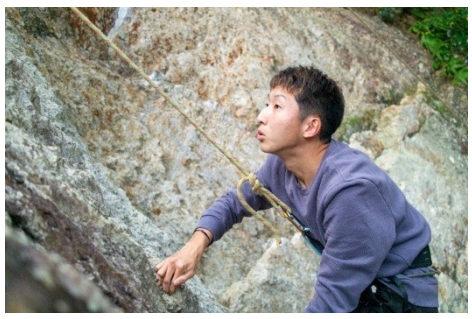
2024年度が終了しました。高校生たちはGEでの遊びや学びで心が豊かに、そして未来を見つめる時間になりつつあるように思います。その内容は活動紹介と3学期最後に書いてくれたまとめで紹介したいと思います。1年を通して、遊ぶだけでなく、その都度感じたことを残してきたメンバーはいつの間にか進化していました。それは書く力がついたという、能力の問題ではなく、心が進化していたのです。いったいどういうことなのか、ここに残したいと思います。








長い沢登りでだいぶ疲労していたが、少し休憩できる所がありました。そしてまた沢登り始めようとしたらとても綺麗な3つの赤い卵を見つけて本当に神秘的だったので、見とれてしまい今まで留まっていたきました。疲れがどっかに行



挑戦！
今年は去年と比べてクライミングがめっちゃ成長した！一般参加では不甲斐ない探検部のかわりにビレーをしたりできることの幅も広がった。一年生の頃と比べると登れる場所も増えたし何より「挑戦するようになったから楽しかった所も危ないで頑張って登れたりした。来年は今程活動できないかもしれないけど何にでも挑戦はつづけて頑張りたい。

山口隼汰（1年）：クライミングをして一歩踏出す勇気をもらったこと（心に残っていること）

沢登り・クライミングなどアクティブな遊びは、メンバーに体と心の両面で感じることが多い活動です。五感全てをフル稼働して体験した先に見つけたものがここに刻まれています。それは自然の素晴らしさの発見と自分自身の発見でもありました。

自然と一体になる

山上渚（2年）：『自然と触れあって、心がすっきりした気分になった。なぜなら、ネットで簡単に見る絶景とたくさん歩いて疲れ果てて見る絶景とは比べるまでもなく、後者がやりきった感も出て、心がすっきりして感動できる。
一回スマホをやめて、自然と一つになってみろ！自然がある、自分があるのは当たり前じゃないと強く実感しました

命を感じる

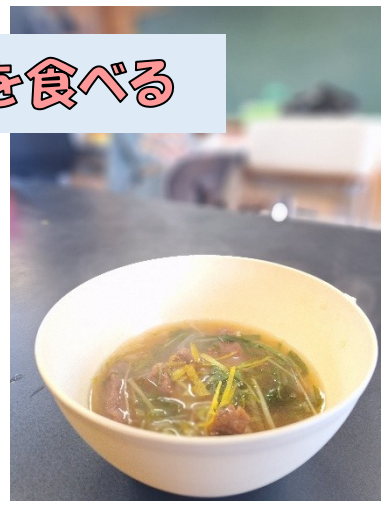
命と出会い、命を感じる時間です。生きるために生きる命と出会った瞬間は、理屈ではなく、純粋な世界との出会いです。命とは何か、生きるとは何か、死ぬということは何か…命と向き合いました。

鈴木悠矢（2年）：成瀬さんと「食べ放題」とか大量に食べることについて話をして、自分では考えもしなかったことに気づいた。
「いただきますは命をいただきます」

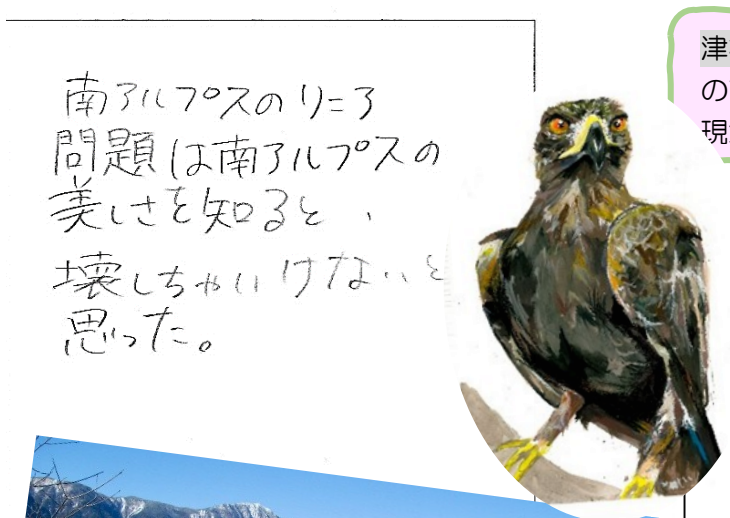
宇佐美温大（2年）：
鹿の頭を見たあとに食べる鹿の鍋は、おいしい以外に何か他のことを感じました。普段食べている食べ物も生きていたと思う。いただきますはとても大切な言葉だと思う。

山口隼汰（1年）：「鹿よ俺の兄弟よ」で人が自然と一緒に暮らしていて、とてもいい世界だと思った。

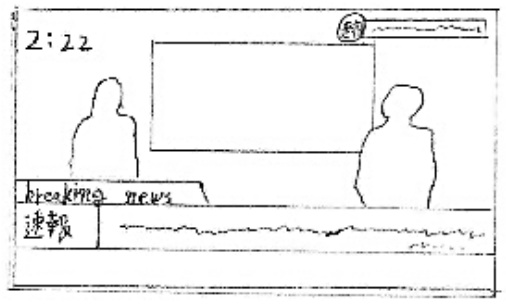
命を食べる

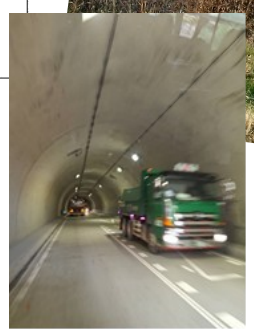


谷川遼馬（2年）
食べることは命を奪うことではなく、命を借りていること



津村奏汰（２年）：目の前の情報を信じるのではなく、疑問に思い誰かに伝える。現地に行き、人の声を聞く





情報について考える

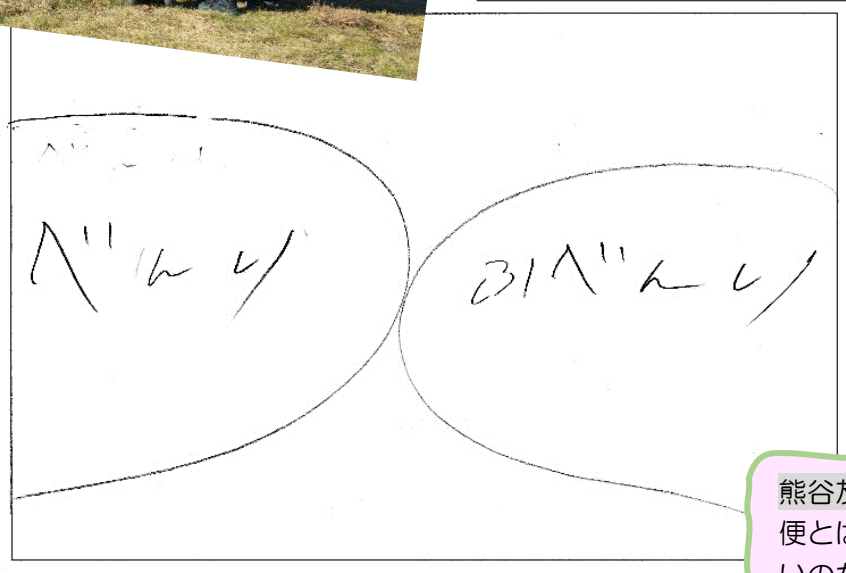
谷川遼馬：リニアの問題を見て、世間や社会がやっていることは間違っていると思った。南アルプスの景色は素晴らしかった。

社会をみつめる

豊かさとは・・・何か

人の暮らしと自然と命と…現代社会の中で失われつつあるものを自分たちの体験から感じられるよう、南アルプスへもでかけました。そこではリニア新幹線トンネル工事が行われ、美しい自然と相反する世界がありました。
自分たちが便利と思っていたものが、どういうことなのか考えさせられた時間です。

体験と学びを通して、自らの生き方と振り返り、未来をどう生きていきたいか…考えた時間でもあります。知ること、考えること、そして行動へ。彼らが今見つめていることです。

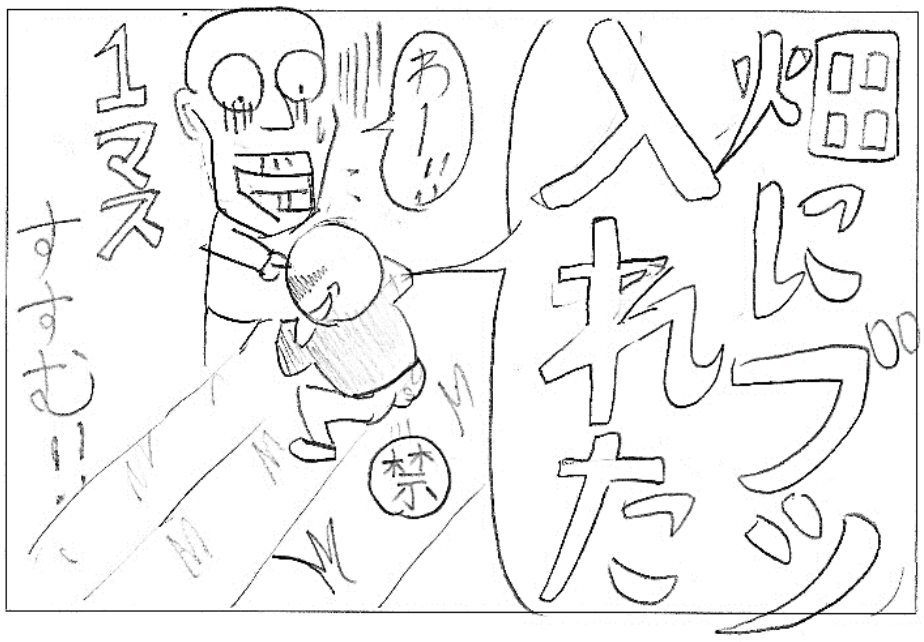


熊谷友宏（１年）：便利とは不便とは、そして便利すぎて良いのか、不便すぎて良いのか

知る・始まる

↑これは熊のう●ち↑

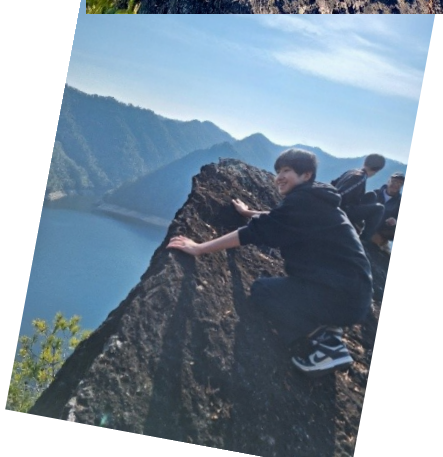
実際に見る・感じる

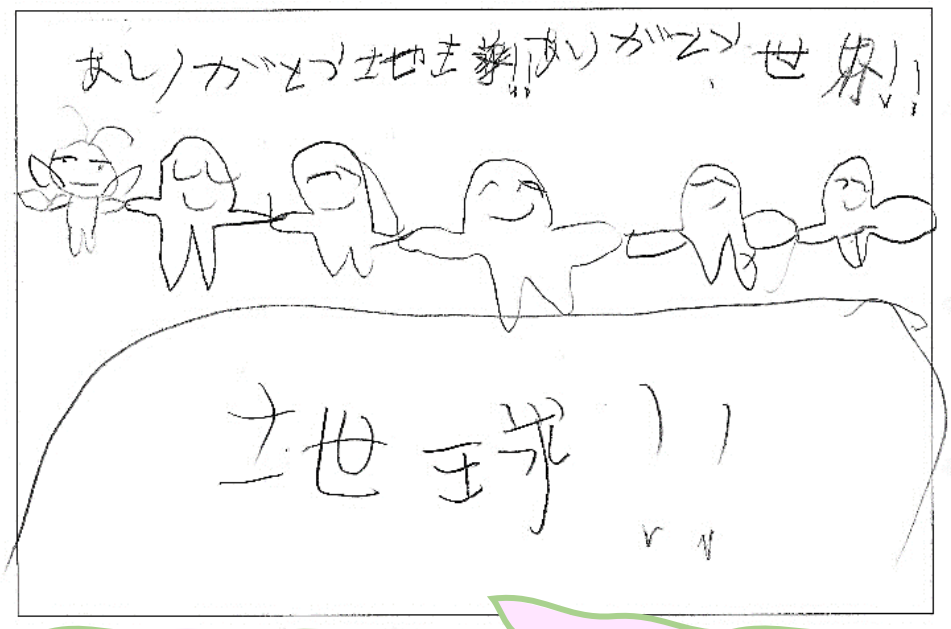


裏↓（表（思い）の説明）

うんこをブチこんだ
ジャガイモは、
うんこ味!!ではなく、
ジャガイモの味だった!!
だけど、うんこを入れた
ジャガイモはとても元気
で、大きさもデカかった。
味もうまかった!!
これが本当の豊かさ
だと僕は思った。
つぎはニンニク!!
たのしみだ!!

自らの感性で感じる体験。グレートアースで一番大切にしていることです。
畑では、身近な有機物で命を育てる。自然の中では言葉を失いそうな世界に足を踏み入れてみる。映像や資料ではわからないことが自らの体験で知った時、その人の本当の学びに繋がるように思います。そこで見つけた大切なことが未来を創る大きな一歩になるのではないでしょうか。





命は繋がっている

1 年間の学びで高校生たちが感じたことは、自然の面白さ、不思議さ、命の素晴らしさ、力強さ。そして私たち人の生き方・生き様…とまだまだ書ききれないくらいの学びでした。そして、この地球に溢れる自然と命と向き合ってきました。
そんな学びの中で感じたことを書き残してくれたので、このページの内容です。地球のこと命のことを語る高校生がいました。
そして自分のことについて語る高校生もいました。地球のことを感じていたら、いつの間にか自分のことを振り返っていたのです。ある時、成瀬さんが言っていました。「自分は地球の一部だ」「でも言い換えれば地球は自分の一部でもある」と。
地球の魅力を知るということは自分自身の魅力を知ることでもあるように思います。

松田彪瑚（1 年）：みんな生まれて、生きて、死んで、また生まれて回っている。この世界に生まれて世界の断片で生きて、生きて、生きていくのはすばらしく、すてきなんだと思った。

伊藤留光王（2 年）：
グレートアースで学んだことがグレートアース以外にも広まっていっても、いかなくても知ったことに意味があると思う

小澤蓮（2 年）：
自分の生き方、考え方に新しい選択肢をもらえたと思う。自然とかあまり知らないことを知ったから、したらよくないこと、こうしたほうがいい、みたいな力がもらえた。

今年は雪が多かった。茶臼山にて

高校生たちは学びの中で、自分と向きあい、気づくことも多かったようです。そんな気付きを語ってくれたメンバーもいたので、紹介します。

高橋希広（2 年）：
家にずっといたら分からない事、やらないような事に挑戦できるのがうれしい。
たくさんの変態に会って、自分も変態になれる。大人たちが言う「安定した職業」「いい学校」と逆の道。ある意味「極道」として生きる選択をあたえてくれる。

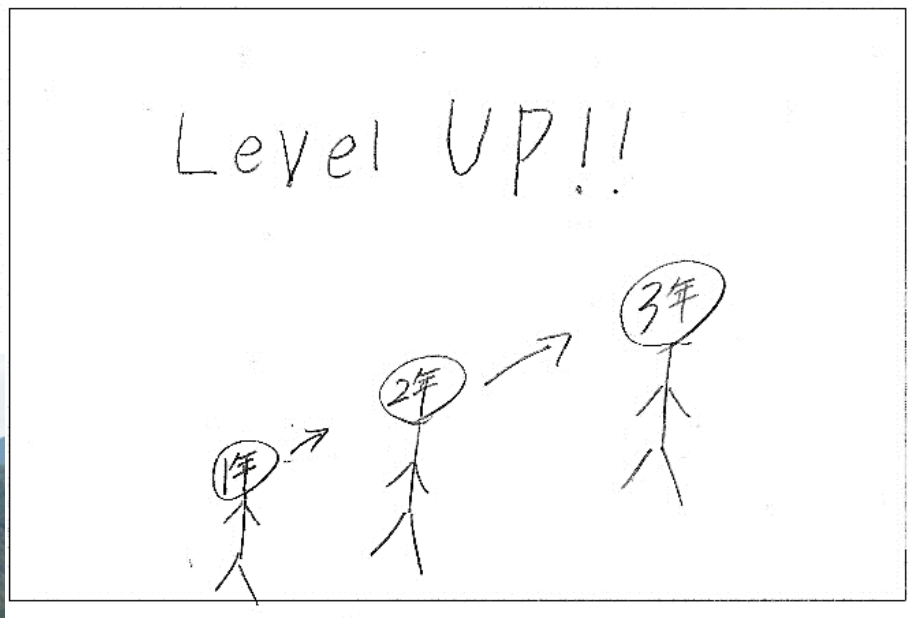
地元新城市の絶景ポイントへ

愛知県に僅かに残る原生林へ

恒川玲（2 年）：
今まで知らなかったこと、関心がなかったことを知れたことで、今までの自分より良い自分になれた気がする。

日比野克彧（2 年）：
問：あなたにとって、グレートアースで学んだことはどんな意味がありますか？
克彧：かれからの人生をどう生きるか。

自分って結構、いいな



裏↓（表（思い）の説明）

グレートアースで年月が経過していく内に心身共にレベルアップしているなと思った。

もうすぐ社会に羽ばたいていく高校生たちは、自分たちの未来に不安や期待がある様子が伺えます。グレートアースの学びの中で自然の中に身を置き、社会と向き合い、命の力強さを感じたメンバーはその感性で自分たちの未来を考えていました。「こんな未来を生きたい」「こんな自分になりたい」…思いが大きくそして深く広がっています。
2 年生は新 3 年生になり、1 年生は新 2 年生になりさらに体験と学びを深めた時、自然と答えを見つけていくように思います。見つからなくても、見つけられる力がついていくと思います。自分の大切にしたいこと、自分の希望を見つけていくように思います。

番外編：防災教育「災害の学び、命の学び」あの日を忘れな

3.11 から 14 年。この日は命と向き合う日です。黄柳野高校は毎年「防災教育」という形で災害について、命について思いを寄せる日としてきました。全校生徒対象です。全体を進行していくのは成瀬さんです。
昨年は能登半島地震とボランティアから感じたことを高校生と共有しました。今年は 3.11 を振り返り、そして 30 年の節目である「阪神淡路大震災」を中心に命について考えました。例年はスタッフから話すことも多い時間ですが、今年は「生徒の身近な人」で、実際に被災された方、復興に関わった方、ボランティアに参加したスタッフに語っていただき、生の声から感じ、学ぶ時間を大切にしました。阪神淡路大震災では当時生後 5 か月だったスタッフとお父さんが発災直後から 1 週間をどう過ごしたのかを聞きました。生きることを最優先に必死に過ごした 1 週間。後半は 3.11 で復興に携わったスタッフからのお話も聞きました。震災にあいながらも、支援にきた人たちに思いを寄せてくれる人々。年数がたつと記憶が薄れていくけれど、今回のような時間で大切なことを思いを起こすことの大切さを伝えてくれました。高校生の心に残る話がたくさん出てきました。
日本は世界でも稀に見る災害大国です。成瀬さんの解説で震災の多いことを確認しましたが、その中でどう生きるのか…も考えさせられました。災害を全て防ぐことはできない。でも過去の出来事や思いを振り返り、心を寄せることで、救える命もあるはずです。
未来をどう生きるのかは、私たちが何を学び、何を大切にするか…ではないでしょうか。失われた命、懸命に立ち上がろうとしている命、新しい命…全ての命に思いを寄せ、この時間を終えました。
高校生たちは震災の恐ろしさも学びましたが、人が心で繋がり進んでいく力強さも感じていました。そして、一歩進む勇気も得たようにも思います。

災害と共に生きる。死ぬまで災害は着いてくるから、どう向き合って生きていくかが重要だと思った
日本はどう足掻いても地震や火災などがあって災害大国となっているところです。理由は日本に生まれ日本で育っていく限り災害や震災と隣り合わせでこれからもそれは変わらないのできちんと過去のことを振り返ったり、避難訓練をして災害時にきちんと落ち着いて対処できるようにできるようになりたいと思ったから。

火山など自然は強く恐ろしいけど、だから美しい。という話が印象に残りました。遠ざけたり、良くない方向に干渉するのでは無く、そんな自然と共存していきたいです。

景色の良さと地震のことを話されたことが印象に残っていて、景色を見る度に、今の景色は災害がおきてしまえば大きく変わってしまうから当たり前ではないということ。それから、景色の良さを当たり前だと思えている間は、災害がおきてしまえば失われてしまうことから、とても大切であるということ。この話には失うことや、大切な今の当たり前について思うところがあるので印象に残っています。〃

橘さんのお父さんの話で、震災直後まだ幼い息子を一番に心配してる所がすごいと思いました。お母さんが抱っこしてくれていたおかげで今こうして生きていると思うと、たった一瞬の判断や運で人生が左右されるんだなって思って改めて怖さを感じました。

竹田さんのお話で、物理的に物を壊すだけじゃなく、人の心まで壊してしまう震災は本当に怖いと思った。

赤羽さんの話が印象に残っています。
家族、友人、失うことになってしまった方々への思うところがある中で話す姿が印象に残っています。思うところがある中で話すことは言葉をにごしてしまいたい、夢だと思いたい、たくさん思いがある中で、話す方がいてくれて、今があるんだと心に残りました。その後の方々の話が心に残るようになったのは、この話が聞けたからです。

2024 年 3 月末、スタッフ有志で
石川県災害ボランティア活動に参加。

起こってすぐは絶望に包まれるかもしれないけど、いつかは元通りではないけど、元に似た状態には戻せるから、何があっても希望を捨てちゃダメだと思った

何処か他人事だったり、ボランティアは自分には出来ないと考えていた。けれど知ってる人が多くインタビューに出ていて、考えてみると思ったより災害は身近でボランティアも知る前から萎縮し遠ざける物ではないと気づいた

生徒の感想、お読みください

編集後記（さ）
遅くなりましたが、二〇二四年度メンバーのまとめを掲載できました。一，二年生のまとめとなりますが、彼らが二〇二五年度も継続してＧＥの学びをしていったときにとても楽しみな内容ばかりでした。決して文章や表現がうまい生徒ばかりではありませんが、それは大きな問題ではありません。一番大切にしていることは自ら感じたことかどうか。誰かに教えてもらったことでもなく、机上の上だけで学んだことだけでなく、自らの体験と心で感じたことを残せたらと思い、取組みました。と、偉そうに言っていますが、高校生たちの力を侮ってはいけないなと感じさせられます。なぜなら、彼らは自然に思いを綴っているからです。「どんなことあったかな」「その時どんな気持ちだった？」なんて聞かなくても、いつの間にか表現しているのです。それは、彼らが本当の意味で自分の五感で体験し、発見し、感動し、感じているからだと思います。人は心に刻まれる経験をしたときには表現するし、したくなる。彼らの姿を見ているとそう思わされます。
今年度は自らの想いを「詩」「歌」「絵」「文」など様々な分野で表現してくれていました。また、彼らは表現を通して、改めて自分の大切な思いに気づいているように思います。日々の体験と自分自身の思いを大切に…二〇二五年度も活動していければと思います。引き続き、高校生の弾ける感性をお届けします。